

■ 発言要旨

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
1	<p>令和3年から子どもたちが交流する取組を始められるとのことですが、令和6年に統合することが分かっているのので時期を前倒すことはできますか。</p> <p>19ページの上から5行目ですが、「保護者等との合意形成が図られれば時期の前倒しもできるものとします」とあり、先が見えておりますので例えば両PTA間同士でお話もできて、もっと早く統合しましょうという話になれば前倒しもできるということで考えております。</p>
2	<p>昭和小のPTAと話をして何かを提出するということはありますか。</p> <p>合意が得られたということであれば時期の前倒しもできます。最終的には、統合に際して確認書に一筆いただかなければなりません、それもできるということであれば問題はないと思います。</p>
3	<p>それは何年先くらいのスパンになりますか。</p> <p>閉校の準備もありますので、1年くらいはかかると思います。例えば来年の4月に統合ということであれば、今年の夏くらいには遅くとも閉校に向けて動いていかなければなりませんので、目途としては1年くらいはかかりますので、令和3年の児童数を見てすぐに統合したいということになっても令和4年4月、もしくは令和5年4月あたりになるのではないかと思います。</p> <p>例えば来年あたりから統合を見越して、十川小と昭和小の交流事業を始めるということも可能ですので、その辺も両PTA間で一定前倒しで話していただいたらスムーズに統合できるのではないかと思います。</p>
4	<p>役員同士で話をするようになりますか。</p> <p>役員同士で協議をして、その時に例えば町も立ち会ってもらいたいということであれば、柔軟に対応したいと思います。</p> <p>窪川地域と大正地域では、中学校の統合が始まります。年明けから北ノ川中、興津中へ教育委員会が入って行ってPTAとのお話をしていくということで考えております。ノウハウはそこでできますので、小学校の統合へはそれを活かせるかなと思います。</p>
5	<p>昭和小で出た意見等を構わない範囲で教えてください。</p> <p>先週の木曜日に昭和小で説明会を行ったところですが、一定統合は免れないというか仕方がないというような意見もあったところですが、ご意見としてあったのは、スクールバス、いわゆる通学手段の確保と学童が主にメインであったと思います。学童でいうと、いまは昭和と十川でしていますが、現計画では十川小の校舎位置ということになってはいますが、学童も十川小のあたりとするのか、それとも昭和小のあたりとするのかを含めて、いろいろなご意見やご質問があったところです。</p>
6	<p>子どもたち同士が仲良くなる機会として、学校のルールではない場所で放課後を一緒に過ごすのは、子どもたちにとっては良いから、一緒に良いのではないかという意見があったとも聞きました。</p> <p>学童というのは窪川小のうり坊だけです、他のところは全て放課後子ども教室です。</p>
7	<p>昭和の子は一回バスで帰ってから昭和で放課後子ども教室をしますか。</p> <p>それは指導者と子どもさえいれば可能です。実際、口神ノ川小が統合していますが口神ノ川小の体育館を利用して放課後子ども教室をしている例もあります。</p>
8	<p>それは子どもたち同士が分裂したりすることもあるんですか。</p> <p>分裂というか、一旦お家の近くまで帰ってという便利さですよ。それと物理的に窪川小の放課後子ども教室や学童はいっぱいなのでそういうこともあるかとは思いますが。</p> <p>何回か意見交換もしていくことになりますので、その時にどういった形、保護者のニーズによってもしかしたら十川で放課後子ども教室でということになるかもしれませんし、昭和にも放課後子ども教室をということになるかもしれません。</p>
9	<p>昭和の説明会では何人くらい参加していましたか。</p> <p>全部で13名で、うち保護者は9名でした。</p>

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
10	<p>先生の数が少なく、いっぱいいっぱい、ICTの技術も外国語も対応が難しく大変という課題は記載されていますが、そこに専門的なICTの方が教育委員会に1名だけいるんですよね。何かあったらその方に先生が相談してということだと思いますが、例えばそういう方が各学校に1名はいないと機能しないと思うんです。パソコンのことをコミュニティスクールでどうしようとしても、すごく時間がかかると思いますし、先生への手立てというのは何か考えていますか。</p> <p>ICTの支援員という形で教育委員会に配置しております。すぐに対応できる方というところで、実際は十川の小学校中学校もICTをモデル的に進めていきたいなというところがあります。ガチガチでICTばかりではないですが、ICTに長けておる先生の配置も考えていかなければならないかなと思います。負担がかかるということも出てくるかも分かりませんが、逆に使いこなせている人にすれば案外そういったところはやり取りもできるのではないかなというところ。現状で考えているところは、ICT教育を進めていくにあたって、みんなが専門性を持たれた方であれば一番良いわけですが、なかなか教員もまとめてということにはならないと思いますので、しかし、小学校・中学校には少なくともICTに長けた方は配置をしていただくようなことをしっかりと進めていきたいと思います。それに加えて、コミュニティスクールや地域学校協働本部がありますが、地域の方の力を借りながら、仮にその中に長けておる方がいましたら、力を貸していただけるような仕組み作りができていったらいいかなと思います。</p>
11	<p>そちらに協力していただくのであれば、立ち上げるにあたってコーディネーターがいると思いますが、そちらはどうなりますか。</p> <p>各学校の支援本部に、コーディネーターは配置というか支援本部の方からお願いしてというのが形上できています。ただ、それが機能しているかどうかは各支援本部によって違います。コーディネートしていくという部分においては、地域を良く知っている地域の方が一番良いわけですが、学校側からお願いするのはPTA関係の人であったりということになったりして、どうしても動きづらかったりする部分があったり、十分に機能しているかといえばそうでもない部分がありますね。</p>
12	<p>PTA会長や地域の方をお願いしてやってもらうこと、ICT関係で先生の仕事を切り出してサポートする役割は全然違うと思います。報酬等の問題も発生するとは思いますが、すごく理想的にコミュニティスクールが回っているところは、町内では米奥ですか。</p> <p>米奥小と影野小でコミュニティスクールをしています。 先日県教委と、コミュニティスクール・地域学校協働本部について今後の在り方について話がありまして、セットで考えていくとのことでした。同時に両方やっていると補助対象としては認めにくくなっていくというような方向性ができております。ということは、コミュニティスクールを各学校へどんどん導入していきたいというような誘導をしているというところ。それを受けて四万十町としても、できるところから徐々にコミュニティスクールを導入していくような方向性になっていくのかなというところは段々と見えてきたところ。</p>
13	<p>コミュニティスクールと地域学校協働本部の違いは何ですか。</p> <p>ざっくり言いますと、学校運営自体を地域の方も含めて進めていくというのがコミュニティスクールで、いろいろな行事等について一緒にやっていくというのが地域学校協働本部の活動です。それを両輪でうまく回していくというのが今後の在るべき姿になっていくのかなと思います。</p>
14	<p>地域は関わりますか。</p> <p>両方、地域は関わってきますが、学校の運営自体を企画していくのがコミュニティスクールです。実同部門は地域学校協働本部です。 例えば学習支援、〇付けや環境整備等学校のニーズに応じて学校の支援をするのが地域学校協働本部です。地域の方々が力を貸して学校のニーズに応じた支援をしていくということです。 本当に分かりにくいと思います。なぜ2つもあるだろうかと。それとコミュニティスクールは教育委員会に対して意見具申ができます。それと人事についても、これは保護者だけではなしにコミュニティスクールとして学校の意向として、例えば川の学習に長けているような方、こういう教育に力を入れたので教員の配置をしてほしいとかいうことの要望を委員会へ提出いただき、精一杯対応させていただきます、やり取りはさせていただきますが意見具申ができるということです。 実際にマンパワーとして頑張っていただくのが地域学校協働本部ということ。コミュニティスクールも地域学校協働本部も、ほぼ同じ人が委員として両方に入ってくることはあるかと思いますが、規模の小さな学校では特にそうであると思います。</p>

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
15	<p>私のイメージとしては、地域学校協働本部は、草刈りをしていただくとか、〇付けといっても、〇付けすら自分以外の人にしてもらうのは嫌だという先生もいるようですし、お花を植えるとかそういった活動なのかなと思います。コミュニティスクールは、アメリカ等ではそうですがピンクリになるというか、保護者の勉強の具合で良い学校にもなれば悪い学校にもなったりとかいうのを聞きました。</p> <p>-</p>
16	<p>学校再編前に、昭和小・十川小でそれぞれコミュニティスクールや地域学校協働本部を設立して学校統合をするのか、学校再編後にコミュニティスクールや地域学校協働本部を設立するのか、そこらへんはどうですか。</p> <p>国・県の方針がコミュニティスクールへ誘導していくような方針ですが、県教委から説明があったときに、同様のことを県教委に申し上げたところです。適正配置計画の中で、いろいろな動きがある中で、あっちもこっちもコミュニティスクールをつくるということは、混乱を招くのではないかとということで直ちに全部統合までにそれを進めていくことは難しいということは県教委へもお返事をしたところです。ということで、できるだけできるところからというような形でというようなお返事しかしていませんし、今後の方向性についてもどこをどうしていくかということについては主体になっていくのは学校の方なので、そういうところと話をしながら進めていく課題になってこようかと思います。</p> <p>統合した後にこういう形にしていくというような在るべき姿というかそういう姿を目指してやっていくというようなところで念頭において今後の話を進めていっていただくとか、それと中学校区単位での地域学校協働本部という考え方もありますので、十和地域の場合は中学校が1校ですので、中学校区単位で取組を進めていく形で進めていくかということも考えられないわけではありません。</p>
17	<p>十川小と昭和小の保護者が合同でコミュニティスクールの話し合いはありますか。</p> <p>ある一定形が決まって、それから作り上げた方がもっと有効ではないかと考えていますので、例えば統合がある時にそのタイミングでコミュニティスクールを立ち上げていくようなことを協議したいと考えています。</p>
18	<p>統合した後ということですか。</p> <p>統合と同時に後になろうかと思えます。前もって設立すると混乱しますので、そういう形での整理をしたいと考えております。</p>
19	<p>コミュニティスクールがとても活発に動き出したときに、宿題なしにしてくださいとかいうようなことも通りますか。</p> <p>提案の内容によって、通る話と通らない話が出てくると思います。</p>
20	<p>昭和小の学校の施設ですが、それは統合した後に何かに活用したりする予定はありますか。</p> <p>現時点ではありません。前倒しがない限りは令和3年5月の時点で状況が明確になりますので、そこから後にそういったことも地域の意向も聞きながら、できるだけ地域の活性化に繋がるような形で活用するか、雇用に繋がるかとかそういうものになってくればいいかなと思いますが、昭和小・昭和中について活用というところは検討しているところです。</p>
21	<p>ずっと複式学級がでてくるのであれば、学び合いの方向に持っていくことはありませんか。</p> <p>現状でこういう形・方向ということはありませんが、いろいろスタイルはあろうかと思えます。個々の学級について学び合いを作っていくということについては、この計画には記載しておりませんが、ICTとかいままでそれぞれの学校が取り入れてきた良さですね、昭和小では昔野菜、十川小でもやっておるかと思いますが、自然体験とか、昭和小で出ていた意見では、ICTの話をしておりましたが、ICTも大事だが自然体験というところを十和地域の良さを活かして大いにやってどんどんやってほしいという話も出ておりました。</p>
22	<p>11月終わりに町長も交えて話し合いがあるとのことでしたが、この保護者向け説明会を十川と昭和中で別々で行って、十川の保護者としては昭和小の保護者の方の率直な意見も直に聞きたい気持ちもあります。保護者向け説明会を分けて開催した理由はあると思いますが、今度は十川小と昭和小の保護者合同でできれば1回あればいいかなと思います。</p> <p>いろいろな形が取れると思いますので、そういったところも連絡もいただけたらという前にニーズがあれば考えていきたいと思えます。</p>

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
23	町長との話し合いは別ですのですか。
	地域の方、保護者の方も来ていただいたら良いんですが、学校の適正配置だけではなくて、広く町政懇談会という形でお話をしますので、適正配置もその中には含まれております。町長が進めていこうという施策についても時間は限られていますが、主だったところを皆さんにもお伝えをして、ご意見を聞きたいというところについてお話をしていきます。
24	児童生徒数によって学級数が決まって、学級数に応じて教職員数の配置も決まるという説明があったかと思いますが、興津中のような学級数・教員数で学校教育は大丈夫なのでしょうか。
	大丈夫とは言い難い状況です。中学校1学級となりますと教員数は4名です。1名は校長先生、教頭先生の配置はありません。教諭が3名です。校長先生は授業に入って教えるということにはなりませんので、3名の先生が5教科(国語・数学・理科・社会・英語)以外にも技術・美術や体育・音楽・家庭科等の教科がありますよね。そういったことを教えなければなりません。現状では、数学の先生が理科を教えたり、社会の先生・国語の先生がそれぞれいますので、他の教科も持っています。体育は非常勤講師、音楽は窪川小から授業の時間に来てもらってという状況です。その他、家庭科や技術、美術等につきましては、それぞれの先生方が持って、話し合いの中で誰が持つかというところで、5教科の先生は単純計算でいけば整っていないという状況ではありますが、非常勤講師や先生方の中で臨時免許の申請をしていただいて、子どもたちを教えていく状況です。非常に苦慮している状態です。
25	興津中の先生方の心境はどのような感じでしょうか。将来、十川中も現在の興津中のような状況になるかもしれませんし。
	人数は少ないですが、2教科も3教科も教えていかなければならない状況に加え、先ほど説明させていただいたように校務分掌がありまして、いろいろな研究主任をしたり、いろいろな役を持たなければならぬことがあります。学校規模が小さくとも役を持たなければならぬということでそれが大きいです。体育主任をしたりとか、いろいろな業務がありますので、かなり負担になっていると思います。ただ、仕事ということもありましょうけど、子どもたちのためにということで一生懸命やっていたいでおるといところが実際です。 ですので、ある一定子どもたちの環境を整えるという意味で適正配置を進めたいということがあります。
26	町が全体の予算の中で教育にかける比重は高いですか。 移住促進されていますが、ここまで教育格差があったら怖くて親は移住できない人もいますと思います。
	他の市町村と比較はしていませんが、ICT(電子黒板やデジタル教科書、タブレット)の導入やエアコンはどこの自治体でもそうですが教育環境を整えていくこと、比較的四方十町の方は予算上は割と取っていているのではないかと思います。
27	ICTと過疎地は相性がいいというよりは不可欠ですよね。であるならば、ICTに専門的な知識を持たれた方を各校に1名は配置してもらいたいですね。
	各校に1名は専門性を持たれた方をと我々も思いますが、うまいことっていないところもあります。英語の方では、高知市等では小学校であれば専任で教えていただく先生の配置もあります。が、全国的にはそういった傾向になってきております。できれば、そういった方に入っていただいて、ALTを町も雇用しておりますので、合わせて専門性を持った方と楽しく学びながら教科ということに小学校もなってきましたので学ぶことができたらいいなと思っております。そういった専門の方の力を借りることで、他の先生方が子どもたちと向き合う時間が少しでも確保できたらいいなという思いはありますし、なんとかしていきたいと思っています。